

なかおかしんたろう
中岡慎太郎（峰 章山）
みね しょうざん

きんのう
勤王の
たいし
大志
くに
郷を
あい
愛するの
おも
思い

とさ
土佐の
なかおか
中岡
こつき
國危を
うれ
憂う

りょうま
竜馬と
とも
與に
あ
在りて
とうばく
倒幕を
とな
唱え

し
死して
なお
仍世に
こく
刻す
じゅんちゆう
順忠の
ひ
碑

勤皇大志愛郷思 土佐中岡憂国危
在與龍馬唱倒幕 死仍刻世純忠碑

解説 幕末で活躍した中岡慎太郎を詠った詩。

語釈 ※中岡慎太郎Ⅱ土佐藩士。坂本龍馬と友人関係。坂本龍馬ら

と共に薩長同盟の斡旋に尽力するも近江屋事件で横死した。

※勤王Ⅱ天子のために忠義を尽くすこと。※大志Ⅱ将来や未知のものに対する遠大な希望。※國危Ⅱ国に対して望ましくない結果が予想されて気がかりな状態。※倒幕Ⅱ江戸幕府をたおすこと。

※順忠Ⅱ私欲のない純粹のまごころ。誠忠。※碑Ⅱ世界への記録。

通釈 勤王を目指し故郷を愛した中岡慎太郎は常に国の危機を案じていた。坂本龍馬と共に倒幕を唱えながらも、志 中半で横死したが、その真心は後世に刻み込まれている。